

令和5年度

教育研究センター通信

No. 14

発行 1月25日



〒989-5171 宮城県栗原市金成沢辺西大寺 1-5 TEL/FAX 0228 (42) 1157

HP アドレス <https://www.kuriharacity.jp/li/O10/O30/O40/O40/index.html>

発行責任者 栗原市教育研究センター 所長 小野寺一浩

「第2回幼稚園長・副園長・主任研修会」

1月17日(水)に幼稚園の園長・副園長・主任の先生方を対象に研修会を行いました。今回は、講話「気になる子のための園内支援体制づくり」とワークショップ「園内の課題改善のために」という内容で行いました。

講話は、北部教育事務所の学力向上指導員(特別支援担当)である宮野小学校の千田睦先生にいただきました。内容は「1園内の支援体制をつくるために」「2気になる子への支援」「3集団への支援」「4保護者との連携」「5研修会参加者の質問への回答」という構成でした。1では、コーディネーターの役割についての説明の後、特別支援学級がない幼稚園のことを考え、みんなで分担して対応するための案を提示いただきました。

2では、正しい実態把握が適切な支援につながるとして、話を聞いていない子の例や実践例を基に噛み砕いてお話しいただきました。3では、学級環境づくりについて、わかりやすい教室環境、指示の出し方、ルールづくりの3点から、園の環境づくりについて、子供たちとのよりよい関係づくり、わかりやすい園環境の2点からポイントを挙げながらわかりやすくお話しいただきました。「職員同士のコミュニケーションがとれていて、同じ気持ちで子供たちと向き合うことが大切であり、『先生』が一番大事な『環境』です」との話が心に残りました。4では、保護者との連携について「気になる子」がいた時の小学校での支援の流れ、保護者への伝え方についてお話しいただきました。保護者とは、コミュニケーションをとりながら信頼関係を築き、保護者の思いに寄り添いながら困り感の理解を図り、長い目で焦らず信頼関係を作ることが大切であることを感じました。

事後の感想には「お話の中で『困った子』ではなく、『困っている子供』、保護者(教師)の着眼点をかえてみることはその子を理解すること、には強く同意しながら聞いていました。支援を要する子だけでない全員の子供に共通で働き掛けができる効果的な環境づくり、指示の出し方、ルールづくり、またCO(コーディネーター)の役割分担(例)は大変参考になりました。保護者との信頼関係づくりは、終始うなずくことばかりでした。」「千田先生のお話がすんなり心の中に入ってきて、とても勉強になりました。話し方、言葉のチョイス、信頼関係の築き方など、とても参考になりました。千田先生のように職員に伝えられる、子供のことを考えられる主任になりたいです。」などが寄せられました。



「第2回幼稚園中堅教員スキルアップ研修会」

1月19日（金）に幼稚園の中堅の先生方を対象に研修会を行いました。

今回は「保育の質の向上のために」という課題について自分なりの考えを持って研修に臨みました。菊地桂子特任教授の講話、そして演習、ワークショップを通して、具体の事例を下に、①子供の気付き・育ち、②学びの芽生えを促すための見直し、③具体的な援助について自分の保育を振り返りました。また「ちゃんと座って食べない子の事例」と「運動会リハーサルで決められた順番通りに並べない子の事例」について、①保育事例の感想の記入、②提示された演習のポイントについての自分の考えの発表、③演習後の感想という順番で話し合いました。どのグループも、一人一人が日頃の保育を振り返りながら、幼児の主体性の育成や幼児を尊重する保育について前向きに語り合う姿が見られ、改善策も出ていました。また、他の先生の考えをこまめにメモをとる姿にも感心させられました。熱心に語り合ったり一つでも多くのことを学び取ろうとメモを走らせたりする姿にたのもしさを感じました。

1年のまとめのこの時期、中堅教員として、他園の先生方とともに自分自身の保育を立ち止まって振り返れたことは、今後の保育の質の向上に向け、この上ない貴重な財産になったものと感じました。

事後の感想には「幼児の主体性を育むため、幼児が納得して活動を進められるような言葉掛けや援助をしていくことが大切であると学びました。一人一人を認め、達成感や満足感が得られるような関わりを心掛けたいと思いました。」「グループワークを通してまずは幼児を見ること、どんな援助が必要なのかを考えること、見通しをもって保育すること等、明日からまた意識していきたいです。また、行事に向けての保育の仕方、意味などしっかり理解していきたいと思いました。子供をよい方向へと導けるような言葉掛けや援助を心掛けていきたいです。」などが寄せられました。



1月は「行く」2月は「逃げる」3月は「去る」と言われます。この時期になると、「今年度のつまずきは今年度のうちに解消し進級・進学させることが教員の務めだ」と先輩から話されたことを思い出します。2月初めには、12月に実施した標準学力調査の結果が配布される予定です。個に応じた指導をよろしくお願いいたします。

○令和6年度標準学力調査〔1回目4～5月、2回目12月実施〕

・小学2年生～中学2年生の実施で小学生は国語・算数、中学生は国語・算数・英語

○令和6年度全国学力・学習状況調査〔4月18日（木）〕

・小学6年生（国語・算数）、中学3年生（国語・数学）